



## どうぶつ 動物には、なぜしっぽがあるの

### しっぽの始まりは、魚のおびれ

地球に最初の生き物が現れたのは、海の中でした。簡単な体のつくりの生き物から、少しずつ複雑で、高度なつくりの生き物に進化していきましたが、まだ、どれも海にすんでいました。そのうち、一部の魚が陸に上がってくらすように進化していき、は虫類が現れました。これは虫類が、今、陸上でくらすあらゆる動物に進化していったのです。

海でいちばん高度に発達したのが、魚の仲間でした。魚は、泳ぐためにおびれが発達しました。このおびれが、は虫類のしっぽに変化し、むなびれなどが手足に変化していきました。

### ひつよう 必要ないものは、なくなっていく

しっぽも、動物の生活にあわせて、その形や大きさ、長さ、毛がふさふさしているとか、しっぽの先だけ毛があるなど、さまざまに変化していきました。しっぽは、走るときバランスをとる、敵を強い力でたたき、ハエや虫を追いはらう、クモザルのように手と同じように物をつかむ、リスなどのように寒いとき体をくるむなど、さまざま形で動物にとって役立っています。人間やモグラなど、しっぽの使い道がなかった動物は、しっぽが短くなり、やがて退化してなくなってしまいました。

人間の赤ちゃんが、お母さんのおなかの中で、だんだん人間らしい形に育っていくとき、とちゅうまで、しっぽのようなものがありますが、生まれてくるころにはなくなっています。（監修・今泉 忠明）

